

山里あすけに暮らす豊かさを求めて

～ あすけ振興計画 ～



足助町まちづくり委員会

【目次】

第1章 総論

- 1 計画の概要…………… 1
 - 計画の目的
 - 計画の特色
- 2 足助町を取り巻く現状と課題…………… 2

第2章 基本構想

- 1 町の将来像…………… 3
- 2 計画の視点…………… 3
- 3 施策の大綱（5つの目標）…………… 4
 - 美しい山里の自然を守り、活用する…………… 4
 - しなやかで力強い足助人を育む…………… 5
 - 地域の自治を高めるまちづくり…………… 6
 - 足助らしい生業を興す…………… 7
 - 山里の豊かな暮らしづくり…………… 8

第3章 地域が自ら考え取り組んでいくまちづくり

- 1 美しい山里の自然を守り、活用する…………… 9
- 2 しなやかで力強い足助人を育む…………… 10
- 3 地域の自治を高めるまちづくり…………… 11
- 4 足助らしい生業を興す…………… 11
- 5 山里の豊かな暮らしづくり…………… 12

資料

足助町まちづくり委員会活動

- 足助町まちづくり委員会委員名簿…………… 13
- 足助町振興計画の策定作業…………… 14

【第1章 総論】

1 本書の概要

目的

豊田加茂7市町村の合併を目前に控え、これからは都市と山村との壁が取り除かれ大きな潮流とともに新たな地域社会の構築が求められています。

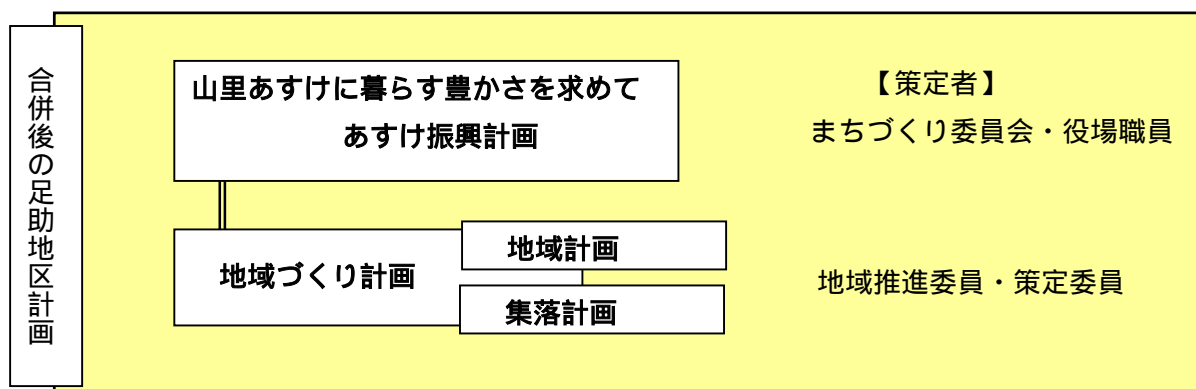
山里足助に住む私たちは、この流れに押し潰されないようしっかり大地を踏ん張りながら、従来から培ってきた美しい自然環境・伝統文化など町の特徴や生き様を受け継いでいくとともに、新豊田市の有利さを十分に取り入れながら新たな価値観や魅力を醸成していくことが大切です。

将来にわたって明るく楽しく、真に心豊かで幸せな暮らしが実感できる地域を創り上げるため、足助に住む人々の基本方針と施策を定めるための計画を策定します。

特色

この計画はこれまでの足助人の精神を受け継ぎ、将来につなげ、足助が足助であり続けるための計画です。策定にあたっては各地域で精力的に活動している住民の代表と役場若手職員で「足助町まちづくり委員会」を設置し、平成15年10月に策定された「地域づくり計画」をもとに、概ね10年後を見据えた計画としました。

なお、「地域づくり計画」については、将来にわたって自らの力で地域を創り上げていくための行動計画となります。



2 足助町を取り巻く現状と課題

足助町を取り巻く現状と課題を整理すると、次のようなことが考えられます。

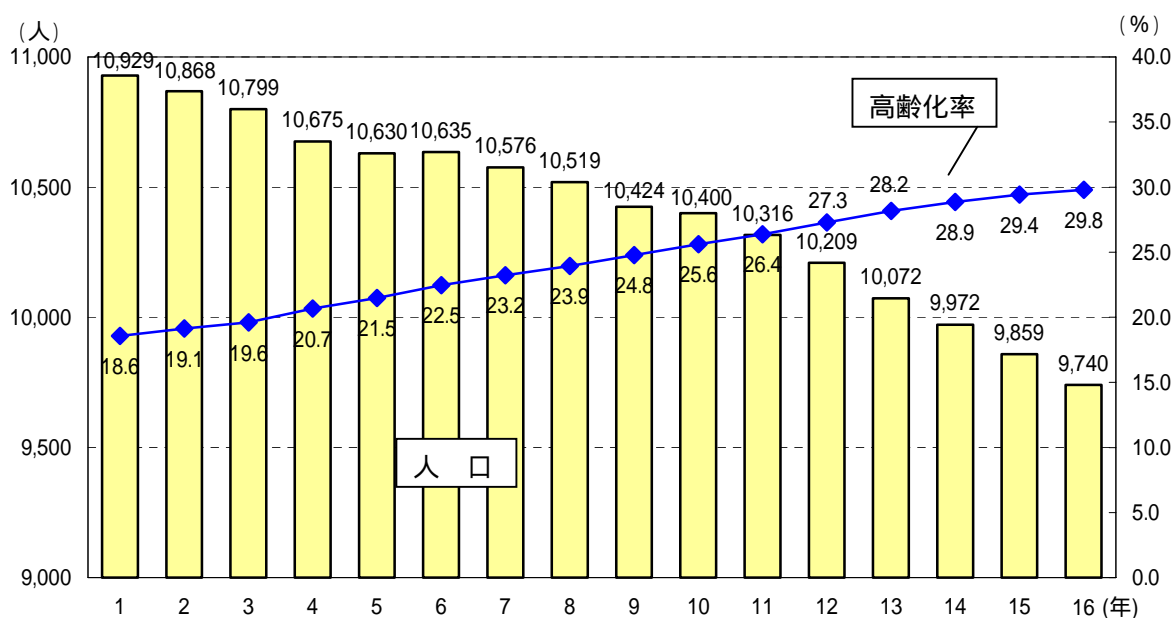
環境重視・自然志向の時代

地球温暖化、ごみ問題など21世紀は地球環境の悪化が深刻さを増し、自然環境の保全と快適な居住環境の創造が大切。

少子化・過疎化による人口の減少と超高齢化社会の進展

平成15年度における町内の死亡者が110人に対し、出生児が50人、また、高齢化率は約3割と高く、足助町の担い手対策のためにも若者を中心とした一層の定住対策と、安心して暮らせる福祉社会の実現が重要。

人口と高齢化率の推移



農林業や商工業など地場産業の低迷

働く場が少ないから人口が減少する。こうした悪循環を是正するためにも、地域資源を活用した新たな山村ビジネスの創造が必要となる。

高度情報化・地域交流の増加

高度情報化と地域交流の時代を認識し、都市と農山村の多様な価値観や文化の交流による地域への潤いや活性化を図る。

地域コミュニティの希薄化と地域活力の低下

市町村合併により、従来足助町が培ってきた歴史風土や生活環境が新市において僻地化し地域衰退の恐れもあるため、コミュニティの相互扶助と地域住民自身が主体的に地域自治を高めていくことが一層重要。

【第2章 基本構想】

1 あすけの将来像

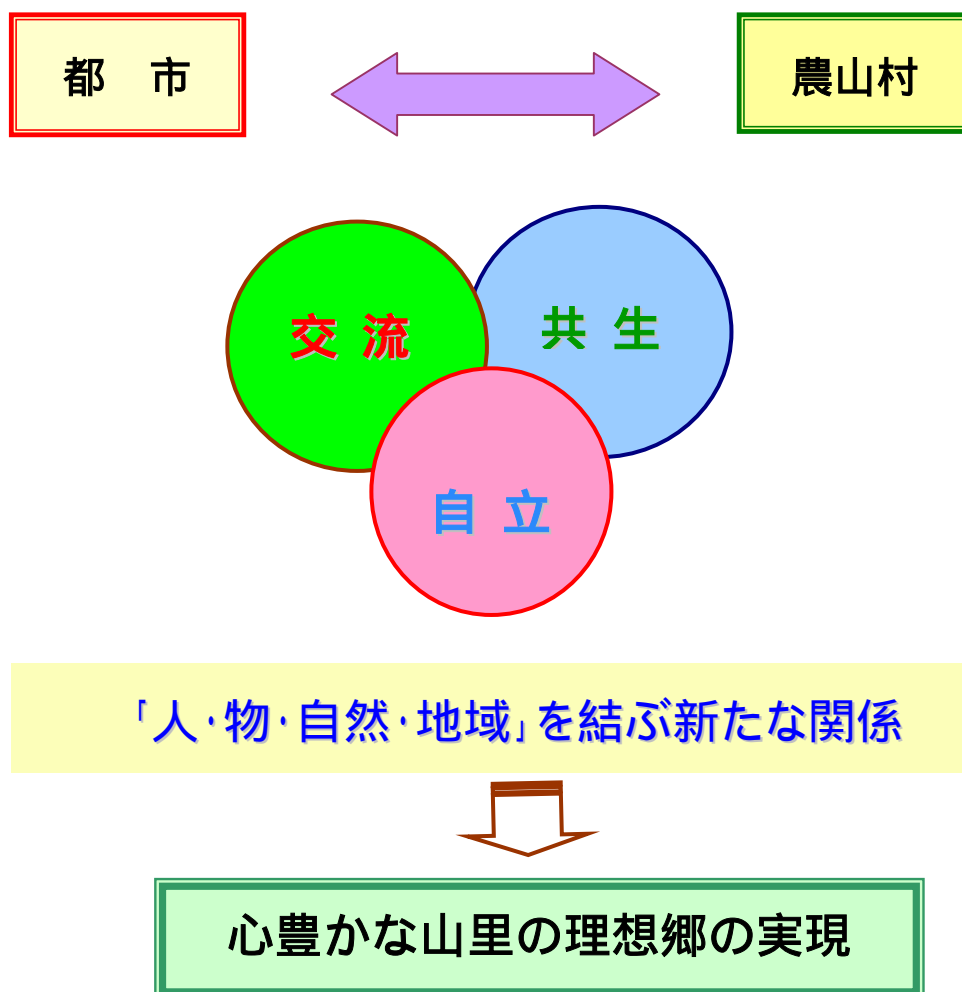
足助シャングリラ...山里あすけに暮らす豊かさを求めて

(第三次総合計画を継承)

2 計画の視点

足助町は、昔から交通の要衝として栄え、今も「香嵐渓」や「中馬のおひなさん」など、毎年多くの観光客が訪れる町です。一方、日常生活では交通網や情報通信網の発達により人々の行動範囲は広域化しており、これからのまちづくりを考えていくうえには、「交流・共生・自立」の3つの視点が大切であると考えられます。そして、農山村と都市間における「人・物・自然・地域」を結ぶ新たな関係を構築し、より良い循環や相乗効果を芽生えさせていくことが重要であると思われまます。

〔計画の視点〕



3 施策の大綱（5つの目標）

この計画に掲げる基本目標は、次の5つです。

美しい山里の自然を守り、活用する

しなやかで力強い足助^{あすけじん}人を育む

地域の自治を高めるまちづくり

足助らしい^{なりわい}生業を興す

山里の豊かな暮らしづくり

美しい山里の自然を守り活用する

…足助町の宝である美しい自然環境を、永遠に存続するまち

美しい自然環境は、足助町の宝です。私たちは、きれいな水と空気、そして先祖から脈々と受け継がれてきた多くの山林や田畑の恵みを受け、自然と共に日々の暮らしを営んできましたが、時代の流れの中で従来型の自然環境の保全が危惧されています。

水源かん養や洪水調整など多機能にわたる重要性を共有し、都市住民との交流や協働により流域全体で守っていく仕組みを整え、併せて多くの人々が自然と親しみ喜びを共有する方策を推進していきます。



美しい山里（大多賀地域）

（1）森林の環境を守り育てる

都市住民に自然回帰欲求やいやしの場を提供し、森と親しみながら森の大切さを学び、より多くの人々の手によって森を守り育てていく環境を整えることが必要です。

このためには、都市住民が山村へ環流していく仕組み（ルート）を構築し、さらに受け皿となる地域での実践活動によって成果を生み出すことが重要です。

（2）美しい田園風景を守る

農業の低迷や後継者不足により、荒廃農地が増加し自然環境の悪化が懸念されるため、都市住民の余暇利用の場を提供し、交流を通して相互理解を深めながら農地を保全する仕組みを構築していきます。

(3) 河川や自然の環境を守る

地球環境への負荷を増大させているゴミやし尿、産業廃棄物などの減量化を図るため、一人ひとりが毎日の暮らしの中でエネルギーや資源を節約し、消費を中心としたライフスタイルを見直し、「循環型社会」の構築に向けて取り組んでいきます。

また、家庭などから汚れた排水を出さないなど環境美化に対するモラルの向上を図るとともに、上下流域の協力体制のもと水質保全や美しい河川環境を守っていきます。

(4) 有効かつ計画的な土地利用

残すべき所と手を加える所を区別し、自然環境との調和を図りながら荒廃地などの有効かつ計画的な土地利用を検討し、町の均衡ある発展を目指していきます。

(5) 長い歴史に培われた伝統文化の保存

町内には、各地域に伝わるお祭りや伝統文化、足助の古い町並みなど長い歴史に育まれた多くの財産があります。こうした先人が培ってきた宝物を大切に守り、将来にわたって足助らしい伝統文化を継承していきます。



足助八幡宮例祭

しなやかで力強い足助人を育む

...子どもは宝 若者は光 高齢者は道しるべ

まちは、住民一人ひとりの集まりです。そして、子どもからお年寄りまでのだれもが主人公になれ、地域に愛着と誇りを持ち、明るく元気に住まう人々の存在が大切です。特に、少子高齢化社会が顕著である足助町においては、子どもたちは地域の宝として山里の良さを活かしながら個性豊かで元気に育ち、また高齢者や障害者がいつまでも元気に生きがいをもって暮らせるよう、地域全体で支えていく体制を構築しさらに充実していきます。

また、女性や若者が活躍し、存在感や充実感が満たされる環境を育てるとともに、世代を超えた交流やコミュニケーションを深め、相互扶助の精神を持ち、お互いに元気で幸せに暮らすことができるまちを築いていきます。

(1) 学校の特徴や少人数学級の良さを生かした「学校づくり」

地域との関わりをもてる、開かれた学校を目指します。

(2) 学校を拠点とした「地域の人づくり」

地域教育力の向上を目指します。

(3) 子どもは町全体で育てる

子どもは家族の宝、地域の宝、町の宝として大切に心を込めて、ふれあいがもてる環境を創ります。

(4) 共に支え、共に生きる

高齢者や障害者などだれもが元気で生きがいをもって暮らせるよう、一人ひとりが思いやりの気持ちを持ち、地域全体で支える仕組みを構築します。



高齢者の健康教室

地域の自治を高めるまちづくり

...住民一人ひとりが主体的に参画し、自信と意志を持って行動できるまち

地域づくりは、多くの住民が主体的に参画し、知恵を出し、汗を結集してこそ築きあげられるものです。特に市町村合併後においては都市内分権も進められ、今以上に住民主体による地域自治活動が重要となってきます。



菜の花畑の音楽祭（則定地域）

そのためには、それぞれの地域が一丸となって地域コミュニティを高め、地域づくり活動を推進することが重要です。こうした活動が地域の存在感を示し、地域の生き残りと発展につながるものと思われます。また、地域同士のつながりを強くし、さまざまな情報を収集発信し、女性や若者たちが積極的に参加し住民相互の話し合いや地域リーダーが自発的に育つ環境を整えていきます。

(1) 溜まり場

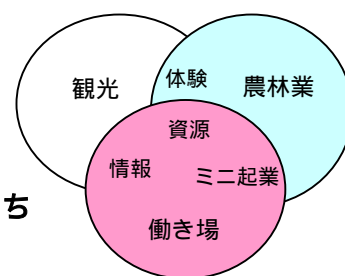
既存の施設をもっと気軽に活用できる仕組みを考え、多目的に利用でき、様々な年代が気軽に集え情報収集や交流ができる溜まり場づくりを図ります。

(2) 住民主役の地域づくり

合併後は、都市内分権の仕組みにより、地域の存在や関わりが今まで以上に重要となるため、各地域における体制整備や自発的な活動が非常に大切となってきます。併せて、町全体として地域間の連絡調整や情報を共有し、相互に激励し合える仕組みを整え、地域づくり活動の一層の推進を図っていきます。

足助らしい生業を興す

...美しい自然景観や歴史文化を大切にし、新たな活力を生み出すまち
...地域資源を活用し、自立・交流・農のある暮らしをエンジョイするまち



足助の資源を有効活用することで、農林業の活性化や働き場の創出など、相乗効果が期待されます。

(1) 観光地

足助町には、東海随一の紅葉の名勝「香嵐渓」をはじめ、美しい自然や古い町並みなど多くの観光資源があります。しかし、秋の香嵐渓に見られるように狭いスペースに一極集中するため、交通渋滞などの弊害もあり対策が重要となってきました。

これからは、観光エリアの拡大を図り、農林業体験など新たな観光発掘に努め、都市住民が四季折々に魅力を感じ、足を運んでもらえるような場を提供し、経済効果の地域分散を図っていきます。



香嵐渓

(2) 農林業

近年、従事者の高齢化や後継者不足などにより農林業の低迷が続いています。

今後ますます農林地の荒廃地が増え、地域活力の低下や生活環境の悪化が危惧されます。本来、山林や農地は恵みをもたらす宝です。



下国谷いもほり

そこで、農林業の効率化と特産品の開発など、自立できる農林業の再構築を図り、利用しきれない農地や山林は理解ある都市住民に開放し、地域住民との交流を通して産業振興の推進および地域活力の向上を目指します。また、地域の資源や自然がもたらす四季折々の恵みを上手に活用し、「農のある暮らし」をエンジョイしながら、快適な山里の暮らしの実現を目指します。

(3) 働く場

足助町は、都市近郊に位置しながら美しい自然環境が残っている町であり、また、古くから街道の要衝として多くの人・物・情報が往来する町でもあります。そして、昔から受け継がれてきたノウハウや、まちづくり先進地として全国的から高い評価を受け、足助ブランドの知名度もあります。

こうした足助町ならではの貴重な地域資源を活かし、さらに観光や農林業、光ファイバ網などを有機的に結び付けながら足助らしい三二起業を興し、町全体の活力増進に資するような取り組みを積極的に行っていきます。

山里の豊かな暮らしづくり

…山里の魅力と都会の利便性を共有し、未来に向かって魅力と活力を創造するまち

私たちは美しい自然の中でどっしりと腰を降ろし、しかも手を伸ばせばすぐに都市の利便性を手に入れることができるような恵まれた位置にいます。しかし、依然として若者の都市流出が続いています。

地域全体で、安全で安心して暮らせる環境を整え、さらに光ファイバ網による情報環境を活かし、足助に住み続けたい、足助に戻ってきたい、足助に住んでみたいと思われる魅力あるまちづくりを目指します。

(1) 若者が住みやすい町づくり

町外に出ていく若者のなかには、結婚しても足助に住み続けたいけれどもアパートがない、住む場所がない。また、足助で住んでみたいが金銭的に難しいなどの声が多くあります。

そうした意見にも配慮しながら、各地域でにこにこ作戦の候補地を確保するなど、多様なニーズにあった住宅・宅地を確保し、若者が住みやすい環境を整備します。



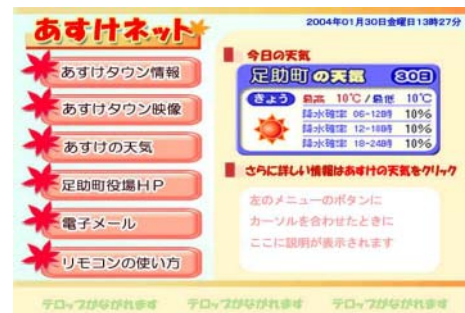
にこにこ作戦による宅地の斡旋

(2) 暮らしやすい生活の基盤整備

公共交通機関が少ない足助町にとって、自動車は生活の重要な手段であるため、安全に通行できる道路網の整備を図っていきます。また、高齢者や子どもたちなど交通弱者にとっても利用しやすい交通基盤の充実を図るとともに、地域全体で支え合いながら安心して暮らせるような仕組みづくりに努めていきます。

(3) 情報基盤の有効的な活用

インターネットを活用し、足助町に住んでいながら都市と同じように情報を容易に入手し、さらに地域間・世代間の交流を行うなど、山里に暮らす豊かさを創造していきます。



地域情報基盤整備事業トップ画面案

【第3章 地域が自ら考え取り組んでいくまちづくり】

足助町はこれまで、町職員の地域担当制に見られるように、行政が主導となって住民との協働によるまちづくりを進めてきました。

しかし、将来にわたって地域を守り育てていくためには、地域に住む住民一人ひとりが主体的に考え、身近な問題は自ら解決することが重要です。

そして、住民の力で「中馬のおひなさん」を興したように、一人ひとりの力を合わせて新たなエネルギーを生み出し、さらに継続と向上を目指していくことが大切です。

美しい山里の自然を守り活用する

| 目 標 | リーディングプロジェクト | 具体的行動例 |
|-------------------|------------------------------------|--|
| 1 森林の環境を守り育てる | 山に親しむ人を増やそう | <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生の自然体験学習の推進 ・森林ボランティアの育成、受け入れ支援 ・サラリーマン世帯の余暇利用 ・定年退職者の活用 ・杣人（そまびと）体験塾 ・間伐材や竹の活用・コンテストなど |
| | 魅力のある山づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・森の散歩道の整備 ・山桜を植える |
| 2 美しい田園風景を守る | 地域の自然に親しむ | <ul style="list-style-type: none"> ・新親類構想に伴う受け入れ体制の整備 ・子どもと一緒に山や川で遊ぶ機会をもつ |
| | 環境美化活動の拠点づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・清掃用品の貸与 ・担い手づくり（美化活動グループ、PTA、ガーデニング愛好家など） |
| | 環境整備によって、地域の魅力を再認識しよう | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の名所づくり活動（蛍の名所、赤とんぼの名所、ささゆりの里、めだかの名所など） ・無農薬集落 |
| 3 河川や自然の環境を守る | 美しい地域・集落づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な道路・河川の清掃および陰切り ・竹林の伐採と活用 ・四季に楽しめる実の成る木の植栽 |
| | 一人ひとりのモラルの向上を図り、身の回りや自宅の周りをきれいにしよう | <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの減量化 ・資源ごみの収集 ・リユース、リサイクル活動 ・EM菌を活用した水質浄化 ・廃油を使った石鹸作り ・天然洗剤の使用 ・草刈・除伐・竹の伐採 ・花木の植栽・育苗 ・四季に楽しめる実の成る木の植栽 |
| 4 有効かつ計画的な土地利用 | 荒廃地などが出ないように、地域全体で守ろう | <ul style="list-style-type: none"> ・休耕田の活用 ・仲介システムの構築 ・地域で協定をつくる ・貸し農園 ・2戸2戸住宅地への転用 |

| | | |
|---------------------|--------------|---|
| 5 長い歴史に培われた伝統を守る | 子どもたちに伝え、守ろう | <ul style="list-style-type: none"> ・足助の古い町並みの保存活用 ・お祭りを将来的に守り継承する ・子どもたちの参加 ・保存会・記録写真・映画の保存 |
|---------------------|--------------|---|

しなやかで力強い足助人を育む

| 目 標 | リーディングプロジェクト | 具体的行動例 |
|---------------------------------|----------------------------|---|
| 1 学校の特色や少人数学級の良さを生かした「学校づくり」 | 地域との関わりのある開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・空き教室の有効利用 ・空き教室やスペースを開放し、ボランティア活動など、常時人が集う場所に |
| | 学校を拠点した地域の教育力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・女性や若者、障害者などを主体とした活動を展開する ・地域のお年寄りが先生となり、世代間交流と知恵の伝承 |
| 2 地域の人づくり | みんなが主役になる地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなアイデアを受け止め、企画してくれる地域組織をつくる ・足助塾の開設 ・山里の暮らしを自然体で生きる「のんびり塾」の開催 ・中高生によるまちづくり委員会 ・子どもが主役になれる仕組みづくり ・10～20代が積極的に参加し、意見が言える場づくり ・お年寄りの知恵と技を受け継ぐ ・若者の趣味や特技を生かす ・地域の隠れた人材の発掘（足助の達人組織の発足） |
| 3 子どもは町全体で育てる | 小人数児童のため、登下校時等の地域支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・学童保育の実施（学校の就業時間後に子どもたちの面倒をみるボランティア制度・お年寄りもゲートボールをやりながら、子どもの面倒をみる） ・子どもを地域ぐるみで見守る（立哨活動・防犯パトロール・連絡体制） ・子どもを野山で遊ばせ、スケールの大きいおおらかな人間を育てる |
| 4 共に支え、共に生きる | 地域づくり、生涯学習を交えて共に支える仕組みをつくる | <ul style="list-style-type: none"> ・近所同士の日頃からのつながりを強化する ・老人世帯、独居老人の地域支援の仕組みづくり ・世代を超えたコミュニケーションの場づくり（お祭り、夏祭り、スポーツ大会、地域イベント、サークル活動） ・引きこもり人を引き出す ・障害をもった人もいきいきと活動できる場と環境づくり |

地域の自治を高めるまちづくり

| 目 標 | リーディングプロジェクト | 具体的行動例 |
|-----------------|-----------------------------|--|
| 1 溜まり場づくり | 地域の人々が集まりやすい溜まり場をつくる | <ul style="list-style-type: none"> ・合併に伴う役場などの空きスペースの活用（若者交流館、児童館、図書館など） ・学校、集会所を拠点とする |
| 2 住民主役の地域づくり | おらが地域・集落の自慢づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・町内地域づくり団体の交流会 ・地域イベント・特産品・歴史文化の伝承 ・地域イベントへの相互参加 ・「地域の自慢」を情報発信 ・地域づくり発表会 ・ホームページで情報発信 |
| | 若者が主体的に行なう地域づくり活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・若者が自発的に企画・運営ができるような雰囲気づくり ・まちづくり委員会（青年バージョン）の設置 |
| | 地域づくり計画（地域・集落）の計画的な実践と更なる向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・各地域の地域づくり組織体制の強化 ・地域住民が、地域の課題などへの関心を深め、積極的に参加する仕組みづくり ・住民主体の自治の学習、推進の場の設置 |

足助らしい生業を興す

| 目 標 | リーディングプロジェクト | 具体的行動例 |
|-----------------|---|--|
| 1 特色ある観光地づくり | 地域資源を活用および発掘し、第2第3の香嵐渓を目指した手づくり観光地を創設する | <ul style="list-style-type: none"> ・将来の観光を見据え、好ましい樹木を植栽する ・四季ごとに特色を出す地域を決めてアピールする ・農林業との併用、経済効果が出るような体験・滞在型観光の普及 ・地域の資源・名人を広める ・新たな名物作り |
| 2 農林業を守る | 都市住民との交流により農林業の活性化を目指す | <ul style="list-style-type: none"> ・農林業体験塾として農林業を勉強させ後継者・新規作業者を育成する ・地域のお年寄り・農協・森林組合との協働 ・土に親しみ、技術を習得する ・みんなで農機具を持ち込み、お祭りのように楽しめる雰囲気づくり |
| | 農林作物のブランド化 | <ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区で無農薬野菜・米づくりをし、ブランド販売 ・よい肥料や作り方をみんなに伝授 ・地域ごとに個性ある農産物を産直所で販売 ・品評会の開催 ・自慢できる特産品・アイデアをもっている人を発掘 ・スローフードの企画・販売 |

| | | |
|----------|--------------------|---|
| | 農林業の効率化 | <ul style="list-style-type: none"> ・農機具の共同利用 ・集団営農組合 ・農協・森組への委託 ・共同農園の実施 |
| 3 働く場 | 農林業や観光を活用して働く場をつくる | <ul style="list-style-type: none"> ・足助商店街の空き店舗を活用 ・地域やグループでミニ起業興し ・エコプロジェクト関係産業の模索 |

山里の豊かな暮らしづくり

| 目 標 | リーディングプロジェクト | 具体的行動例 |
|--------------------|---|---|
| 1 若者が住みやすいまちづくり | 中高生の積極的参加・呼びかけ 若者が積極的に地域活動に参加する仕組みや雰囲気をつくる | <p>特に中学を出るとつながりが薄れる傾向があるため、高校生の年代がキーポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクバレーボールなどの参加を呼びかける ・地域全体でボーリング大会などレクリエーションを行い交流する ・消防団活動を地域全体で理解（消防団に対する認識不足の解消） ・地域活動やイベントに計画段階から積極的な参加を促す ・PTA 世代および高年独身者の地域づくり活動への積極的参加 |
| | 若者の定住対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で受け入れに対する意識の改革 ・人付き合い、お役を再構築 ・困った時はすぐに（支え合い） ほっといてあげる（プライバシーの保護） ・若者が購入しやすい、借りやすい土地や賃貸住宅の確保 |
| 2 暮らしやすい生活の基盤整備 | 災害に備えた組織づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の実践的な地域防災計画の策定、地域連携 ・自主防災会の活動強化 |
| | 安心と潤いのある生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・四季折々に美しい花木の道 ・あいま～るの充実とご近所タクシーの検討 ・地域通貨制度の検討 ・自給自足（農林業の楽しさ） 安全な食べ物、田舎の良さを実践（スローライフ） |
| 3 情報基盤の有効的な活用 | 地域や個人で、情報基盤を有効利用する | <ul style="list-style-type: none"> ・中高生のパソコン倶楽部、IT 応援団の設置 ・高校生や大学生を活用...地域とのつながりづくり ・地域でのパソコン塾・インターネット講座の開催 |

足助町まちづくり委員会の活動

足助町まちづくり委員会委員名簿

座長、副座長

| 番号 | 氏名 | 住所 | 備考 | グループ |
|------|-------|-----|---------------------------|--------|
| 地域住民 | | | | |
| 1 | 藤島 徹夫 | 宮 町 | 宮町策定委員 | 1班(班長) |
| 2 | 荒木 正容 | 田 町 | 慶安寺住職 | 2班 |
| 3 | 近藤 千草 | 新 町 | ぬくもりコレクション 子育てネットワーカー | 2班 |
| 4 | 高木 伸泰 | 則 定 | 第4分団分団長 | 4班 |
| 5 | 近藤 光男 | 上小田 | 上冷田集落代表者 | 3班(班長) |
| 6 | 深津 幸子 | 籠 林 | 子育てネットワーカー | 2班 |
| 7 | 飯田久美子 | 桑田和 | さざんかの会 | 1班 |
| 8 | 塚田 幸文 | 五反田 | 水耕栽培農業 | 2班(班長) |
| 9 | 鈴木いづみ | 上八木 | 明和ふれあいクラブ代表 | 3班 |
| 10 | 水野 浩司 | 中 立 | 大蔵地域づくり推進委員会会長 大蔵地域代表 | 3班 |
| 11 | 松井 幸雄 | 新 盛 | 前新盛地域づくり推進委員会会長 新盛策定委員 | 1班 |
| 12 | 藪下 順子 | 小 町 | 町シャングリラ委員 町体育指導員 | 4班 |
| 13 | 西田又紀二 | 千 野 | NPO 法人代表理事 特別委員 | 4班 |
| 町職員 | | | | |
| 1 | 鳥居 寿 | 本 町 | 総務課主査 | 1班 |
| 2 | 小瀬垣奈帆 | 稲武町 | 税務課主事 | 4班 |
| 3 | 寺下 泰之 | 野 林 | 住民課主査 | 3班 |
| 4 | 高野なおみ | 桑田和 | 保健福祉課主任保健師 | 2班 |
| 5 | 板倉 通悦 | 白 倉 | 産業課主査 | 3班 |
| 6 | 安藤 智己 | 大 蔵 | 建設課主査 | 4班(班長) |
| 7 | 鷹見 英志 | 西 町 | 水道環境課主事 | 1班 |
| 8 | 畑田 吉彦 | 本 町 | 教育課主査 | 2班 |
| 事務局 | | | | |
| 1 | 青木 信行 | 川 面 | 企画課課長 | |
| 2 | 天野 正直 | 栃 本 | 企画課課長補佐 | |
| 3 | 青山 茂 | 本 町 | 企画課主査 | |
| 4 | 井上美知代 | 豊田市 | 企画課主査 | |
| 5 | 本田 彩子 | 豊 岡 | 企画課主事 | |

アドバイザー・・・(株)計画技術研究所(KGK)取締役 加藤 明

・・・四日市大学総合政策学部教授 今川 晃

足助町振興計画の策定作業

| 番号 | 日 時 | 場 所 | 内 容 | 出席者数 |
|----|-------------------------------|-----------------|-----------------------------------|------|
| 1 | H15. 6.30 (月) PM7:30～9:00 | 役場 第1会議室 | 第1回まちづくり委員会 まちづくり委員委嘱 | 25名 |
| 2 | H15. 7.24 (木) PM7:30～10:00 | 役場 第1会議室 | 第2回まちづくり委員会 他己紹介など | 25名 |
| 3 | H15. 8.10 (日) PM1:30～7:30 | 役場第1会議 室、三州楼 | 第3回まちづくり委員会 サントリー文化財団との交流会 | 14名 |
| 4 | H15. 9.10 (水) PM7:30～9:30 | 役場 第1会議室 | 第4回まちづくり委員会 主要テーマの洗い出し | 20名 |
| 5 | H15.10.2 (木) PM7:30～9:30 | 役場 第1会議室 | 第5回まちづくり委員会 主要テーマのグループ分け他 | 23名 |
| 6 | H15.10.9 (木) PM7:30～10:00 | 役場 第1会議室 | 第3班グループ会議(主要テーマの内容検討) | 6名 |
| 7 | H15.10.15 (水) PM7:30～10:00 | 役場 第1会議室 | 第2班グループ会議(") | 7名 |
| 8 | H15.10.22 (水) PM7:30～10:00 | 役場 第1会議室 | 第1班グループ会議(") 第2班グループ会議(") | 15名 |
| 9 | H15.10.27 (月) PM7:30～10:00 | 役場 第1会議室 | 第4班グループ会議(") | 7名 |
| 10 | H15.11.5 (水) PM7:30～10:00 | 役場 第1会議室 | 第6回まちづくり委員会 グループ会議の報告・調整 | 23名 |
| 11 | H15.11.12 (水) PM7:30～10:00 | 慶安寺 | 第2班グループ会議(主要テーマの内容検討) | 9名 |
| 12 | H15.11.13 (木) PM7:30～10:00 | 役場 第1会議室 | 第1班グループ会議(") | 6名 |
| 13 | H15.11.17 (月) PM7:30～10:00 | 役場 第1会議室 | 第3班グループ会議(") | 5名 |
| 14 | H15.12.4 (木) PM7:30～10:00 | 役場 第1会議室 | 第4班グループ会議(") | 5名 |
| 15 | H15.12.8 (月) PM7:30～10:30 | 役場 第1会議室 | 第7回まちづくり委員会 計画素案の中間発表(町長他) | 28名 |
| 16 | H15.12.16 (火) PM7:30～10:00 | 役場 第1会議室 | 第8回まちづくり委員会 地域が自らできることの検討他 | 23名 |
| 17 | H16. 1. 8 (木) PM7:00～9:30 | 役場 第1会議室 | 第9回まちづくり委員会 シャングリラ足助2004発表打合せ他 | 23名 |
| 18 | H16. 1.16 (金) PM7:30～10:00 | 役場 第2会議室 | シャングリラ足助2004発表者会議 発表内容の検討他 | 6名 |
| 19 | H16. 1.21 (水) PM7:30～10:00 | 役場 第2会議室 | シャングリラ足助2004発表者会議 発表内容の検討他 | 6名 |
| 20 | H16. 1.27 (火) PM7:00～9:00 | 足助町公民館 | 第10回まちづくり委員会 シャングリラ足助2004リハーサル | 22名 |
| 21 | H16. 2. 1 (日) PM12:30～7:00 | 足助町公民館 | シャングリラ足助2004 町振興計画(素案)発表 | 30名 |
| 22 | H16. 2.23 (月) PM7:30～9:00 | 役場北庁舎 第1会議室 | 第11回まちづくり委員会 | 19名 |
| 23 | H16. 3.24 (水) PM7:30～9:00 | 役場北庁舎 第1会議室 | 第12回まちづくり委員会 | 14名 |
| 24 | H16. 5. () PM7:30～9:00 | 役場 第1会議室 | 第13回まちづくり委員会 | |

平成16年3月策定
足助町まちづくり委員会